

## 日本のモグラ・島根のモグラ

島根県立三瓶自然館

大畑 純二

### 1. 日本のモグラ類

アジア大陸の東縁に沿うように長く連なる多数の島嶼から成る日本列島は、その東西南北で気候的に大きな違いを見せるが、それに伴って生物相にも大きな違いが見られる。

生物相の違いは、単に気候的な差異だけによって成立したのではなく、それぞれの島嶼が成立するための地史的な差異にも影響されている。つまり、それぞれの島嶼が、他の地域といつの時代に陸続きであり、従って両地域の間で動植物の行き来があり、また、いつの時代に島嶼化したかということによって、従って、両者の中で独自に進化が起こり或いはいずれの地かで絶滅する種があったりして、両地域に見られる動植物相に様々な違いを生じることになった。その結果、日本列島の動植物相はきわめて多様なものになった。

日本列島は非常に狭い島嶼の連なりにも関わらず、7種類のモグラ類が生息している。分類の考え方の違いによって、9種類のモグラ類が生息しているとする研究者もいる。

ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True,1886・ヒミズ *Urotrichus talpoides* Temminck,1841・ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* (Günther,1880)・サドモグラ *Mogera tokudae* Kuroda,1940・アズマモグラ *Mogera imaizumii* Kuroda,1957・コウベモグラ *Mogera wogura* (Temminck,1842)の6種が日本本土地区に生息している。また、南西諸島(尖閣諸島の魚釣島)には、センカクモグラ *Nesoscaptor uchidai* Abe,Shiraishi and Arai,1991が生息している。

隣接する朝鮮半島に、チョウセンモグラ *Mogera wogura coreana* Thomas,1907 とオオモグラ *Mogera robusta* Nehring,1891 の2種しか見られないことを考えると、日本列島には非常に多くの種類のモグラ類が生息しているといえることができる。

### 2. 島根県のモグラ類

中国地方には、ほぼ全域に生息しているヒミズとコウベモグラの外に、鳥取県大山山頂付近の1400 m以上にヒメヒミズ、広島県の中国山地脊梁部(島根県境付近)にミズラモグラ、広島県の中国山地脊梁部(島根県境付近)と山口県豊浦郡にアズマモグラの小型個体群とされるコモグラが生息している。このような分布の仕方は、大型のヒミズによって小型のヒメヒミズが、大型のコウベモグラによって小型のコモグラとミズラモグラが駆逐されて、低地から高地へと追いやられた結果成立したとされてきた。

以前は島根県にはヒミズとコウベモグラしか生息しないとされてきたが、1995年にコモグラが生息していることが明らかになり、2000年にはミズラモグラの骨と毛が含まれたキツネの糞が発見され、ミズラモグラの生息の可能性が出てきた。